

編集後記

▼平成七年一月十七日早朝、兵庫県南部を襲った地震は死者五千人を出し、戦後の震災としては最悪の被害となつてしまいました。昨年よりの北海道、東北地方を中心に発生した地震で罹災された方々とあわせて、罹災地の皆さまに謹んでお見舞い申し上げ、お亡くなりになられた方々のご冥福を心からお祈り申し上げます。

▼現代宗教研究第二十九号をお届けいたします。

今回の所報は、これから将来に向けての教団の方向・あり様はどうなるのかを真剣に考えていかななくてはならない、ということに示唆を与えてくれるものとなりました。

▼井上順孝先生は、現在の既成宗教と新宗教の布教態勢を宗教システムという概念で論じつつ、二十一世紀に宗教界は大変な事態を迎えるだろうと述べられています。

おおえまさのり先生は、地域性や時間性、バイブル・經典などを超えた精神の領域を一人ひとりがつかみとっていくことによる、人類宗教的なものがあらわれてくる可能性を予見され、また、近藤千雄先生は、生死を越えた

靈性に目覚めるスピリチュアリズムの時代が来るだろうと予測されています。

▼人は人類宗教的な信仰を持つにいたるのでしょうか。今までの宗教・宗派はそれまでの一手段にすぎなくなるのでしょうか。その時「教団」はどうあるのか。

▼貫名師の発表にあるカトリックの宗教対話と立正佼成会の宗教協力という考え方は、宗教界の一つの流れと捉えていくべきなのでしょうか。

▼他教団研究プロジェクトが来年度研究成果を出されるという。今までの日蓮宗と他教団・諸宗教との関わり・対応の研究のみではなく、将来に向けて教団の基本姿勢とそのあり方を示していただけを期待します。

▼都市寺院調査の中間報告ができました。今回の調査に快くご理解下さいました多くの方々のご協力に心より感謝の意を表します。

▼御講演をいただいた諸先生、また御執筆を賜りました先生方に心より御礼申し上げます。
(木村記)